

機関番号：16201

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2008～2010

課題番号：20401007

研究課題名(和文) ドバイで働くフィリピン女性のアイデンティティの再編ーキリスト教徒
とムスリムの比較

研究課題名(英文) Filipino Diasporas in an Open City in the Gulf States

研究代表者

細田 尚美 (HOSODA NAOMI)

香川大学・インターナショナルオフィス・講師

研究者番号：70452290

研究成果の概要(和文)：

本研究は、アラブ首長国連邦のドバイで働く2つの民族集団の海外出稼ぎの経験とアイデンティティの再編を比較検討した。その結果、ドバイでは職場や公共空間などにおけるフィリピン人同士の日常的な交流活動を通じて「フィリピン人」としてのアイデンティティが強まる傾向がみられる一方、階層や宗教が異なる場合は交流の機会が限定的であることが明らかとなった。特に、本国における社会経済的状况に大きな差があるムスリムの女性家事労働者とそれ以外のフィリピン人の交流が最も少なかった。

研究成果の概要(英文)：

This study looked into experiences of Filipinos working in Dubai, United Arab Emirates, and compared identity reconstruction between two ethnolinguistic groups, namely Christians from the Eastern Visayas and Muslims from the South-Western Mindanao. It argued that, through everyday contacts in this global city, their identity as “Filipinos” was likely to be strengthened, although sometimes class and religious differences may lessen such contacts. Contacts between Christian Filipinos and Muslim Filipina domestic workers were found least likely to happen except emergency cases, due to the disparity in their socio-economic conditions prior to the departure.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	2,900,000	870,000	3,770,000
2009年度	1,900,000	570,000	2,470,000
2010年度	2,100,000	630,000	2,730,000
年度			
年度			
総計	6,900,000	2,070,000	8,970,000

研究分野：地域研究

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：国際労働力移動、アイデンティティ、民族間関係、フィリピン、中東・湾岸地域、アラブ首長国連邦、移民、グローバル化

1. 研究開始当初の背景

フィリピンは、メキシコとならぶ現代の海

外出稼ぎ大国として知られる。同国では現在、人口の1割にあたる800万人が世界の180を超える国・地域で働いている。このような活

発な海外出稼ぎ現象にともない、フィリピン人移民を対象とした研究の数も増加した。ところが、従来の研究は、フィリピンが100以上の民族集団で構成されているにもかかわらず、フィリピン人移民を「フィリピンからの移民」として単一のイメージで描くにとどまっていた。

2. 研究の目的

こうした先行研究の動向を踏まえ、本研究は、アラブ首長国連邦（以下 UAE）のドバイで働く2つの民族集団の海外出稼ぎの経験とアイデンティティの再編を比較検討することを目的とした。2つの民族集団は、東ビサヤ地方のキリスト教徒とミンダナオ島南西部のムスリムである。フィリピンでは1970年代以降、フィリピン政府軍と少数派のムスリム中心の武装勢力との間で紛争が続いている。そのような状況のもとで、本研究は、両民族の出身者がマニラやドバイといった新たな社会環境で、ムスリムあるいはキリスト教徒、さらには他国出身者らとともに働くという経験をとおして、それぞれの民族、宗教、階級、女性としてのアイデンティティが再編される過程を実証的に考察した。

3. 研究の方法

ライフストーリーの聞き取り、参与観察、質問票調査の3手法を中心として、UAE（主にドバイ）とフィリピン（マニラ、ミンダナオ南西部、東ビサヤ地方の3地点）で研究調査を進めた。研究メンバーは全員、現地語でのインタビューが可能という資質を備えている。また、それぞれ、これまでに行った長期フィールド調査をとおして、本研究が事例として取り上げる民族集団の人々と友好的関係を築いている。こうした条件から、質的調査法の柱であるライフストーリーの聞き取りや参与観察を積極的に取り入れ、そこから集められたデータを研究成果に生かすことができた。メンバーは毎年約1ヶ月間、フィリピンやドバイに滞在し、各自調査を進めた。同時に、マニラでは質問票調査を実施した。フィリピン政府は、海外就労者に対し渡航前セミナーを受講することを義務づけているため、ドバイへ向かう人々のためのセミナー会場で質問票調査を行い、量的データを収集した。

これらの現地調査にくわえて、研究対象者たちを取り巻く社会経済状況や労働市場についての知識と理解を深めるため、UAEの研究機関や市民団体の職員、フィリピン大使館関係者らから説明を受けた。さらに、年3~4

回、中東諸国における労働市場や移民労働者問題の専門家ならびに市民団体の代表を招へいして研究会を開催し、意見交換を行うとともに、幅広い文脈で本研究の扱う事象を分析した。

4. 研究成果

本研究の結果、ドバイでは職場や公共空間などにおけるフィリピン人同士の日常的な交流活動を通じて「フィリピン人」としてのアイデンティティが強まる傾向がみられる一方、階層や宗教が異なる場合は交流の機会が限定的であることが明らかとなった。特に、本国における社会経済的状況に大きな差があるムスリムの女性家事労働者とそれ以外のフィリピン人との間の交流が非常に少なかった。

このことにより、フィリピン人移民を「フィリピンからの移民」として単一のイメージで捉えられない状況を示した。くわえて、両国政府や移民保護を訴える市民団体に対しても、一国民を単一視するのではなく、階層や宗教などのいくつかの社会的属性を考慮に入れて政策を決めなくてはならない点を指摘した。

さらに、フィリピン人と他の国籍の外国人労働者との交流は全体としては少ないが、建設労働者や家事労働者などの間では連帯する意識もみられ、宗教施設や学校を通じた交流の空間も存在していることも浮き彫りになった。したがって、在UAEの外国人は、同国の非定住型外国人受け入れ政策のために国籍によって所属意識と社会活動が分断されているとはいえ、宗教や階層などの別の基軸を中心に新たなアイデンティティ意識が芽生える場になっている点についても示唆した。

以上の成果を湾岸研究国際学会（英国エクセタ大学）で発表したところ、フィリピン語やアラビア語を駆使し、湾岸の最も積極的な受け入れ国（UAE）においてアジアの最も積極的な送り出し国（フィリピン）からの労働者の生きる空間を、階層や宗教といった差異を考慮しながら、本人たちの主体性も視野に入れて描いた貴重な研究であるとして国外の湾岸地域研究者から高い評価を得た。さらに、3年間の研究成果を当事者らも含めた国際社会全体に向けて公表することを目的に、2011年3月に本研究課題の研究対象国であるUAEの首都アブダビにて国際ワークショップを開催し、同国在住の中東、インド、フィリピン出身の研究者、政府関係者、フィリピン人団体代表者の前で発表し評価を受けたとともに、今後の研究課題を討論した。

本ワークショップの研究発表ならびに討

論の内容や他の参加者からの寄稿文は「ドバイ移民社会研究会調査研究報告書」として2011年3月に出版した。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計3件)

- ①渡邊暁子. 2011. 「『オープンシティ』におけるフィリピン・ムスリム—アラブ首長国連邦の事例」『白山人類学』13: 117-123. 査読無.
- ②渡邊暁子. 2010. 「マニラにおけるフィリピン・ムスリムの婚姻実践とマリッジスクープ」『地域研究』10(1): 110-131. 査読有.
- ③Hosoda, Naomi. 2008. “Connected through “Luck”: Samaritan Migrants in Metro Manila and the Home Village.” *Philippine Studies* 56(3): 313-44. 査読有.

[学会発表] (計3件)

- ①Watanabe, Akiko. “The Pre-Departure Orientation Seminars: A Way of Protecting Prospective Overseas Filipino Workers?”. The 2010 Exeter Gulf Studies Conference, 2 July 2010, University of Exeter, UK.
- ②Hosoda, Naomi. “Border Control and Filipino Expatriates Pursing ‘Dubai Dream’”. The 2010 Exeter Gulf Studies Conference, 2 July 2010, University of Exeter, UK.
- ③Ishii, Masako. “Moving Through Layers of Complex Disparities: Experiences of Muslim Filipina Domestic Workers in the UAE”. The 2010 Exeter Gulf Studies Conference, 2 July 2010, University of Exeter, UK.

[図書] (計9件)

- ①細田尚美, 石井正子, 渡邊暁子, 堀抜功二 (編). 2011. 「ドバイ移民社会研究会調査研究報告書」(A Report on Filipino Diaspora in an Open City in the Gulf States) ドバイ移民社会研究会, 99.
- ②細田尚美. 2011. 「海外就労先を開拓し続けるフィリピン」安里和晃 (編)『労働鎖国ニッポンの崩壊—人口減少社会の担い手はだれか』. ダイヤモンド社, 197-213.
- ③細田尚美. 2011. 「送り出し国フィリピンにおける看護教育と看護師就労状況」安里

和晃 (編)『労働鎖国ニッポンの崩壊—人口減少社会の担い手はだれか』ダイヤモンド社, 119-136.

- ④細田尚美. 2011. 「UAEにおける外国人労働者の受け入れ体制と就労の現状」笹川平和財団「人口変動の新潮流への対処」研究 (編)『外国人労働者問題をめぐる資料集 III』笹川平和財団, 73-88.
- ⑤渡邊暁子. 2010. 「海外就労するマニラのムスリム女性の生活戦略」龍谷大学アフラシア平和開発研究センター (編)『文化と紛争』(アフラシア叢書第3巻) ミネルヴァ書房, 202-226.
- ⑥Ishii, Masako. 2010. “Moving through Multiple Layers of Complex Disparities: Experiences of Muslim Filipina Domestic Workers in the Arab Gulf States”, in Fumiko Oshikawa ed. *Linkage of Disparities Reorganization of Power and Opportunities in the Globalized World*, Center for Integrated Area Studies, Kyoto University, 85-98.
- ⑦石井正子. 2010. 「フィリピンの開発過程と女性労働政策: 「移民労働の女性化」がもたらした影響について」加藤剛・長津一史 (編)『開発の社会史: 東南アジアにみるジェンダー・マイノリティ・境域の動態』風響社, 187-224.
- ⑧Abinales, P. N. 2010. *Orthodoxy and History in the Muslim Mindanao Narrative*. Ateneo de Manila University Press. 278.
- ⑨Abinales, P. N. 2008. *Mindanao, Region and Nation: The Joys of Dislocation*. Anvil Publishing. 197.

[その他]

http://www.cseas.kyoto-u.ac.jp/projects/kakenhi/hosoda-kaken_ja.html

6. 研究組織

(1) 研究代表者

細田 尚美 (HOSODA NAOMI)
香川大学・インターナショナルオフィス・講師
研究者番号: 70452290

(2) 研究分担者

アビナレス P N (ABINALES P.N.)
京都大学・東南アジア研究所・教授
研究者番号: 60314267

石井 正子 (ISHII MASAKO)
大阪大学・グローバルコラボレーションセンター・特任准教授
研究者番号: 40353453

渡邊 暁子 (WATANABE AKIKO)
東洋大学・社会学部・助教
研究者番号：70553684
(H19 研究協力者→H20 研究分担者)

(3) 研究協力者

堀抜 功二 (HORINUKI KOJI)
京都大学・大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・博士課程